NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

中国『撫順改造戦犯歴史研究会』来日

昨年暮れに中国に設置された『撫順改造戦犯歴史研究会（中帰連研究会）」の研究者 5 人が 7 月 10 日、撫順戦犯管理所の張継承所長を団長に来日しました。

翌 11 日には川越の中帰連平和記念館にご来館下さり、館内見学や設立経緯の説明、松村髙夫・理事長、姫田光義・館長、日本側『中帰連に学ぶ会』の石田隆至・事務局長の皆さんなどと交流し、さいたま市の元中帰連・稲葉績さんの取材インタビューもされました。

その後、訪日団は松江の難波靖直さん、大阪の須子達也さん、岐阜の西尾克巳さん、札幌の大河原孝一・元副会長、神奈川の絵鳩毅さん、久保田尚雄さん、東京の髙橋哲郎・元事務局長の「元・中帰連」の皆さんと面談し24 日に無事帰国されました。

前列左から（秦先生、松村理事長、張団長、稲葉さん、廬先生、？先生、後列中央・姫田館長）

「仁木初代理事長　日中を結ぶ海へ」

仁木初代理事長が昨年 8 月 9 日に急逝されたことは『会報』6 号でお知らせしましたが、その「一年忌」を前に、生前のご本人の意思により、ご家族同様に暮らしてきた王智新さん、江麗臨さん　江昊さんの 3 人で日本と中国を結ぶ東シナ海の公海上で、お花と共に散骨されたとのご報告が届きました。

3 人は 7 月 12 日に大阪南港から「蘇州号」に乗り、翌 13 日公海上に出た処で船長の了解を得て散骨されたとのことです。

仁木先生は宋慶齢を敬愛し直接お会いしたこともあり、また現職時代は日教組本部婦人部など多方面でご活躍され、定年後も「中国山地の人々と交流する会」や「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」初代代表の他、その後、設立した当『ＮＰＯ・中帰連平和記念館』の理事長などでお世話になりました。

（お気に入りの宋慶齢からもらったドレスで）

改めて仁木先生のご尽力に感謝申し上げると共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。仁木先生有難うございました！

２０１３年「総会」を開催

5 月 26 日（日）「中帰連平和記念館」で総会が開かれました。「正社員」26 名のうち 15 名が出席、10 名が委任、1 名が欠席し、定款の過半数（「委任」を含む）を超え成立し、議長に芹沢、書記に石田を選出し議事に入りました。

最初に松村理事長から挨拶と報告がありました。

当日午後の「学習会」の講師をお願いした大村次郷さんのご紹介や、記念館の「資料室」の床修理の完成、「中帰連に学ぶ会」（事務局長：石田隆至）の発足などの報告がありました。

続いて、姫田館長から「定款」に館長の名がないので再考して欲しいとのご要望がありましたが現状をご了解戴きました。また最近の日中関係の心配や、中国の「撫順改造戦犯歴史研究会」の来日に際して「受け継ぐ会」と「記念館」双方の名で招聘状を出したと報告がありました。6 月 30 日の「撫順・平頂山から考えるシンポ」や 8 月 2 日に府中市での「合唱チャリティー」への参加要請などもありました。また、多くの皆さんのご尽力で雑誌『中帰連』の発行がほぼ順調に戻ったことへの御礼の言葉などがありました。

「報告事項」としては前記「資料室」の床修理の完成、軍事評論家Ｆ氏の資料整理の開始、振込口座など前仁木理事長名義は全て松村理事長・記念館への変更済みの報告がありました。また事務局から、近いうち「記念館」のホームページ（ＨＰ）やメール、メーリングリスト（ＭＬ）などの開通予定と報告もありました。

その後、下記の「審議事項」に入りました。

① 理事などの人事の変更について

理事 、監事の「辞任、再任、新任」などの議案が下記の通り全会一致で承認され、新人事は下記の通りです。

【理事】
松村髙夫（理事長・慶応大学名誉教授）
姫田光義（館長・中央大学名誉教授）
今井雅巳（副理事長・「受けぐ会」岐阜長）
大河原孝一（元中帰連副会長・札幌）
髙橋哲郎（元中帰連事務局長・東京）
芹沢昇雄（事務局長・埼玉）
長坂光行（会計・東京）

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局長、明治学院大学・神奈川）
山縣美智代（「受け継ぐ会」本部事務局）
松山英司（「受け継ぐ会」神奈川支部長）
平山百子（「受け継ぐ会」東京支部長）
橋本聰（「受け継ぐ会」東京支部）
辻　耕（「受け継ぐ会」千葉支部事務局）

【監事】
星野泰久（「受け継ぐ会」埼玉支部）
岩淵とも子（東京）

② 「会員」の扱いについて

今まで記念館がＮＰＯになる前に『友の会』として組織し会費やカンパを戴いていましたが、今後「友の会」会員はそのまま、ＮＰＯの「賛助会員」とすることが了承されました。

また「正会員」とは総会に出席し議決権を持ち、ご希望の方はその旨書面で提出することで正会員になれます。但し「総会」に出席戴かないと総会が成立しないので宜しくお願い致します。

③ 会計報告

会計の長坂理事から別紙の会計報告があり、会計監査報告と共に承認されました。（「収支計算書、監査報告」8 頁参照）

④ その他

・今後の作業に下記の担当者を中心に進めることを決めました。
（会報作成－芹沢、展示－今井、蔵書整理－宮本、中帰連に学ぶ会－石田・張、史料のデジタル化－石田、芹沢）
・雑誌『中帰連』からの事務所費支払い申し出の件は今後理事会で検討する。
・芹沢を定款にある「事務局長」とする。

「写真家・大村次郷さんの講演会開催」

5 月 26 日総会の午後から写真家の大村次郷さんの講演会を開きました。

大村さんはＮＨＫドキュメンタリー「シルクロード」や「四大文明」のスチール写真などを担当し、ベトナムの「枯れ葉剤」などの写真も撮って来た方で、松村理事長と交友があり、当日の 3 日前にインド、ネパールから帰国したばかりです。当日は体調不良の中ご無理下さいました。

大村さんは大型のプロジェクターを持参され、ベトナムの「枯れ葉剤」の影響と言われている二重胎児のベト君、ドク君の写真など多くの写真を写しながら説明下さいました。

大村さんはベトナムのツーズー病院に併設されている障害者施設「平和村」も訪れ、生まれつき右腕の肘から先が無い同施設のダエン・ホン・ロイ君(26 歳)がパラリンピックを目指し水泳している姿なども写し「応援したい」と報告しました。

放映の後のお話でベトナムに行っても「シャッターを切ってもいいのか？」と自問自答しながら迷い、一枚もシャッターが切れずに帰国したこともある話しなどの体験をお聴きし、プロが写真を撮る思いが伝わりました。

（プロジェクターを調整する大村さん）

連載　記念館資料室から第4回

歴史を書き換えたい者が見ないもの

石田隆至（中帰連に学ぶ会事務局）

▼歴史をねじ曲げようとする日本政府

安倍首相の「侵略の定義は定まっていない」、麻生副首相の「ナチスの手口に学べ」など、過去の侵略や虐殺の歴史を歪めたり、正当化したりする政治家の発言が続いています。韓国出身の潘基文国連事務総長が日本の政治家の歴史認識が東アジアに危機をもたらしていると注文を付けると、日本は「国連憲章の中立原則に反する恐れがある」として逆に批判しました（米高官が同様の注文を付けた際には、安倍首相は慌てて「村山談話を踏襲する」と言いだしたのですが・・・）。虐殺や侵略の歴史を「修正」し、正当化する発言に国際社会が厳格なのは、どれだけ反省しても同じ過ちを繰り返さないとは限らない人間存在の危うさを限りなく自戒しているからだ、という前提が理解されていないようです。

今回紹介する菊地近次（第 59 師団）の手記「悪魔」は、歴史修正主義者が躍起になって否定する日本軍の残虐性を記しています。そこからは、歴史を書き換えようとする者の意図を阻む「事実」と、加害の認識に立った者だけが持つ自己への「峻厳さ」が伝わってきます。

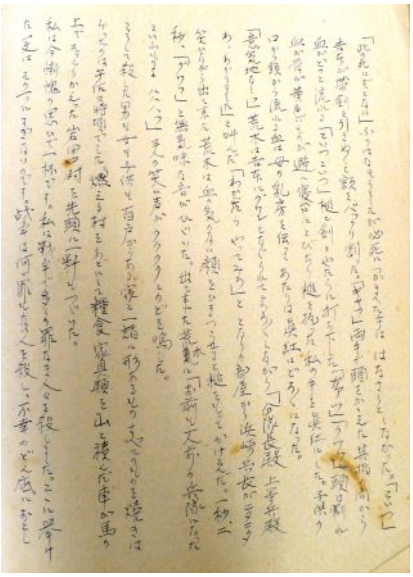
▼残虐さを記した手記が伝えるもの

敗走が続く 1945 年、山東省荏平県南方の部落を包囲していた百名の日本軍の中に、菊地はいました。部落民と八路軍（共産党軍）に前日攻撃されたことへの報復戦でした。上官は、「生きているものは皆殺してしまえ。兵器を徹底的にさがせ。糧秣は全部持ってかえる。いいか」と命令をかけ、87 ミリ砲や重機関銃などで一斉に部落を砲撃しました。兵士らが「村にとびこんで行き」、「腸を引きちぎる様な叫びが村のすみずみまでひびき、生き地獄そのものと化した」と記されています。

「三名の部下をつれて中央の大きな家に入っていった」菊地は、部下に奥の部屋まで徹底して捜索させたところ、4 人の女性と１人の男の子が肩を寄せ合って隠れていたのを見つけました。年配の女性が年若い女性を庇うと、近藤さんは「 此奴(こやつら)等だ、昨日ワイワイさわいだのは。こんな奴ぶち殺してやるのだ。お前、ぶち殺してみろっ」と初年兵に命じます。「兵器で〔殺すの〕はもったいない」と部下が見つけてきた「木槌」が初年兵に手渡され、「これでガアンとやってみろっ！！」と命じました。

木槌を目にした女性たちが抵抗すると、「気の動くままに人を殺し、気の変わる毎に人の命をもてあそぶ事に順(な)れきった私と H と Y はおどりかかるやつき倒し、蹴り倒し、髪をむしり、引きまわして袖をちぎり、くたくたになった女をまる裸にした。『へっへっっ』と H がニタニタ笑いながら『分隊長殿、あの若い女を向うへ連れて行っていいですか』と言った。私はこいつぬけめのない奴だと笑いながら『逃がすなよ』と女をあごでしゃくった」と記しており、民間人への虐待や略奪、強姦も横行していたことが記されています。

他方で、木槌を握りながら固くなって何もできないでいる初年兵を突き飛ばし、菊地は自ら「範」を示すように木槌を女性に振り上げました。木槌をよけた女性の「左の胸にくいこんだ」ため女性は悲鳴を上げ、男の子は絶叫しました。その男の子にも木槌を振り下ろし、「パッと血がとび散って小さな頭が二つに割れ」ました。そこに駆け寄った母と思われる女性の頭にも木槌を振り下ろし「つぶれた梨のような母子の顔や頭が真っ赤になって重なり合



（菊地さん直筆の「手記」原本）

った」と記しています。結局この場にいた女性と子供は全て殺害され、家は焼き払われました。

読むに堪えない内容が続きますが、何より菊地自身が身をよじるような思いをして一文字一文字を綴ることで、自身と被害者に向き合おうとしたことが伝わってきます。「ここに挙げた一文はその一つにすぎないのです」と記す菊地らが伝えようとした＜事実＞に、日本社会はまだ十分に向き合えてはいません。（敬称略）

シリーズ　「図書資料から」 (4)

『戦後はまだ・・・
刻まれた加害と被害の記録』
（著者：山本宗補　発行：彩流社　A4 判 160 頁）

本書は今年 8 月 15 日発行の新刊です。

被害、加害を問わず著者が 70 名の戦争体験者に聴き取り、その人の写真と証言を左右 2 頁に治めた「写真集」でもある。

冒頭に「元中帰連」の小山一郎さん（2010 年没）が自らの「実的刺突」（中国人を縛り付け的の代わりに突き殺す初年兵の訓練）や強制連行、命乞いをする老婆の殺害などを証言している。

他にも軍医だった湯浅謙さん（2010 年没）、2000 年に従軍慰安婦問題を裁いた「女性国際戦犯法廷」で加害証言をした金子安次さん（2010 年没）、松江市の難波靖直さんの 4 人「元中帰連」の皆さんが収録されている。

本書は①アジア、中国、シベリア、②東南アジア、③南洋、沖縄、　④本土、空襲、被爆者に 4 分類され、その各編に証言者の体験した場所が何処か解る地図も載っている。

兵士の証言のみならず、所謂、従軍慰安婦、開拓団、現地人の証言、兵隊同様に「赤紙」一枚で招集された元日赤看護婦は「再び騙されてはなない」と訴えている。知られている通り南方の戦死の多くが「餓死」であり、「人肉を食べていた」との証言や、自殺した兵士は戦死したことにしたり、沖縄でも軍は民を守らず壕から追い出し、母親が自らの子を殺害した現場を見た証言などもある。

また、毒ガス工場で働いた証言、人間魚雷「回天」の元特攻隊員、沖縄戦を始め東京、名古屋、大阪などで空襲に遭い孤児になったり傷害を持って生きてきた証言、一人で反戦と憲法擁護を訴えてきた益永スミコさんは『原因は自分たちにある』と指摘している。写真家の福島菊次郎の証言も載っており、それぞれの証言者の写真や辛い写真もあるが、素晴らしい証言写真です。（事務局・芹沢）

シリーズ　「映像資料」から（4）

『命をかけた日中友好・岡崎嘉平太』
（[ＮＨＫ・ＥＴＶ特集 2007.3.19・60 分）

岡崎嘉平太（以下、彼）は戦後、経営危機の池貝鉄工、丸善石油を立て直し、その後、全日空の社長を歴任する一方で、日中国交回復前に半官半民の『日中長期総合貿易に関する覚書（ＬＴ貿易）』を実現し、生涯日中友好に尽力した。

彼が中国に関心をもってキッカケは一高時代の親友、中国人留学生の？徳柏との出会いであった。しかし、戦争が始まり中国人差別・蔑視が激しくなり「こんな嫌な日本なら来るんじゃなかった」と？は彼にだけ伝え帰国してしまった。その心の傷が日中友好を目指す原点だった。

彼の子息・彬氏は上海の小学生の時代に彼から「中国人を差別するな」と常に言われていたが、中国人の子に小さな怪我をさせてしまった。これを知った彼はその少年の家を一緒に探し出し、彼自身がその家で土下座し、彬氏の頭を地面にこすりつけて謝罪させたという。相手の中国人は日本人

が土下座して謝罪する姿にビックリ！していたという。

子どもの頃に生一本で喧嘩太郎だった彼に、母は『自分が譲れば事が収まる時は譲るもんだよ』と常に戒めていたという。岡山県吉備中央市の母校・大和小学校には彼直筆の『人の身になって考えよう』との額があり、日中友好の原点もこれであった。

中国への彼の構想は自民党の松村謙三や高碕達之助に協力を得て、1962 年に高崎を団長に彼が副団長として訪中し迎えたのは周恩来だった。しかし、当時国交回復していない日本は戦争への謝罪もしていないことが心配だった。しかし、周恩来は『日清戦争以来、日本は我が国を侵略し、人民を傷つけ苦しめてきました。我々は深い恨みがあります。しかし、中国と日本の間には 2000 年にわたる友好の歴史があります。戦争による不幸な歴史は数 10 年に過ぎません。我々は日本に恨みをもっていますが、忘れようと努力しています。これからは日中が力を合わせてアジアを良くしようではありませんか』の言葉に彼は心を打たれた。

当時の通訳は 2 人の間に外交辞令を超える友情を感じたという。この貿易事務所が大使館代わりになり、後の国交回復への道の太いパイプとなった。これに台湾政府を認めていた外務省は非協力的だったが、通産省が理解を示し協力してくれた。

当時の関係者は単に貿易の仕事ではなく「人との触れ合いを大事にした」と証言、一方で右翼から売国奴と罵られ、卵をぶつけられ、自宅に街宣車が乗り付け、脅迫電話が頻繁にかかり大変な攻撃があたが、彼はひるまず周恩来と 18 回も面談し進めて行った。

周恩来は子息の彬氏に「私は貴方のお父さんが友情のために命を掛けているから信用するんだ」と話したという。そして「中国で僕を殺す人なんかいないが、君のお父さんは日本へ帰ったら危ないんじゃないか？」と心配さえした。

周恩来は日中国交回復式典のメンバーに彼が漏れている事に気付き、直ぐ訪日するように手配させ、彼は取材機に同乗し訪中した。そして、田中総理の訪日 2 日前に周恩来は岡崎ひとりのためたった 1 卓のパーティーを開いている。

中国には『水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れるな』との諺があり、周恩来は彼をその「井戸を掘った人」と高く評価し、彼は生涯に 101 回も訪中し、その後も研修生の受入や、彼の出身地の高校生が交流を続けている。

67 年に佐藤栄作総理が台湾を訪問、共同声明で「中国は軍事的脅威」と表明したことに中国が敵視政策と反発し貿易協定の期限切れを前に重大な危機を向かえた。中国は反発したが岡崎は「このパイプが切れれば 2 度とつなげない」と何とか決裂だけは避けたいと尽力し『日中覚え書き協定』を結び、この時に中国が「戦争賠償金」の請求をしないことが示された。（事務局・芹沢）

資 料 整 理 進 む

軍事評論家Ｆ氏の「資料」ダンボール箱約 100 個が記念館に寄贈されており、4 月から松村理事長の要請を受け、長岡大学の兒嶋俊郎、東京外語大の遠藤美幸、慶応大学の平山勉の各先生にご協力戴き、整理分類などを始めて戴いており、今後も定期的に整理研究を続けて戴きます。

～お知らせ～

第4回　『中帰連に学ぶ会』開催予定

日時：9 月 21 日（土）13:30 ～ 16:30
場所：「中帰連平和記念館」
テーマ：「撫順改造戦犯歴史研究会」
来日報告

冒頭の記事の通り各地を訪れた「撫順改造戦犯歴史研究会」に同行した関係者の皆様からご報告を戴き、その情報を皆さんで共有したいと思います。

（会場の都合でご参加ご希望の方は、下記の電話・ファックス、メールなどでご連絡下さい）
記念館：T&F：049-236-4711
芹沢 E-mail：serinobu@nifty.com

「記 念 館 」近 況

記念館にはこの夏にかけて若い記者や学生たちが来館しています。毎日新聞本社やＮＨＫ浦和放送局の若い女性記者、ジャーナリスト志望の早大生からは『東京新聞と西日本新聞から内定が届いた』と嬉しいメールも届きました。こんな若い皆さんが記念館や中帰連、平和などに関心を持ってくれることを嬉しく思い、今後も活躍を期待したいと思います。

「ＨＰとメール」の開設について

今まで、記念館の連絡は芹沢個人のメールを使っていましたが、記念館にインターネットを開通させ、メールやＨＰを開設しました。
ＨＰは徐々に完成させて行きますが、記念館の近況や「学習会」のご案内、資料の案内、会報などを徐々にアップしたいと思います。
メールは今まで通り芹沢のメールも有効ですが、記念館のメルアドとＨＰのＵＲＬを下記にご案内します。また、近いうち「ＭＬ」も設定し記念館からのお知らせなどに使いたいと思います。
メール：chuukiren@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/

「資料室」の床修理完成

記念館は元々中古の倉庫を買い取ったものですが、貴重な資料などを保管している「資料室」の床が、本の重みで床が傾いたため、資料室の床を全部はがした修理が完成しました。皆様の会費とカンパで修理（70 万円）する事ができ、皆様のご協力に感謝致ます。

（床を剥がした「資料室」）

（床修理が完成した「資料室」）

NPO･中帰連平和記念館

〒 350-1175　埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
【開館日】水、土、日（なるべく連絡請う）
郵便振込：「中帰連・平和記念館」
（００１５０－６－３１５９１８）
E-mail：chuukiren@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/

平成24年度特定非営利活動に係わる事業会計収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人中帰連平和記念館

単位:円

科　　目	金　額		
Ⅰ　収入の部			
1　会員年会費	1,824,000		
2　寄付金	868,175		
3　借入金収入	0		
4　立替金戻入	0		
5　預かり金	0		
6　雑収入	197,842		
当期収入合計		2,890,017	
前期繰越収支差額		1,801,125	
収入合計			4,691,142
Ⅱ　支出の部			
1　事業費			
修繕費	62,600		
事務用品費	82,310		
通信費	355,581	TEL.伝言	
消耗什器備品費	33,496		
印刷製本費	450		
光熱水道料	103,013		
会議費	19,268		
旅費交通費	111,000		
賃借料	11,340		
司書謝礼	480,000		
租税公課	65,000		
雑費	160,535	1,484,593	
2　仮払金			
床改修工事内金	260,000		
		260,000	
3　借入金返済			
短期借入金返済	0		
預かり金支払い	0		
計		0	
当期支出合計			1,744,593
当期収支差額			1,145,424
次期繰越収支差額			2,946,549

会計担当　長坂光行

2012年度　決算書類に係わる会計監査報告書

当監事は2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日)決算書類について、下記方法で監査を実施しましたので報告いたします。

記

1・決算書類と、帳簿、証憑書類との整合性

2，郵便振替口座残高、並びに通常郵便貯金残高、及び現金等についての確認

3，決算報告書の内容

4．理事会等記念館運営状況

上記、監査の結果、正しく処理されていることを認めます。

2013年4月24日

特定非営利活動法人　中帰連平和記念館　監事　高橋哲郎

監事　野村真己

以　上